



学校だより第11号

令和8年2月27日

新宿区立戸塚第三小学校



ながれ

100th Anniversary

進学・進級 新しい春に向かって

校長

長く続いた乾燥を潤す待望の雨に草木も春への活力を増したようです。学年の終わりとなる3月を迎えます。明るく輝く、新しい春の進学・進級に向け1年間のまとめをしっかりと行っていきます。

「6年生を送る会」を行いました。今年度も実行委員会の児童が中心となって企画・運営をしました。嬉しそうに、少しはにかみながら1年生が手を繋いでエスコートし、胸にプレゼントの似顔絵ペンダントを掛けた卒業生が入場しました。ステージに到着し全校児童の前に立つ姿は、最上級生としての自信に満ち、堂々としていて、誇らしく胸を張り、笑顔にあふれていました。お祝いする在校生と、お祝いされる卒業生とが心をつにし、別れを遠くに意識しながら時を慈しんで過ごしました。

お世話になった6年生、憧れの6年生への感謝の気持ちを込めて、1～5年生がそれぞれに思い出やふれ合いを振り返りながら、練習を重ねた出し物を贈りました。思いを届けようとする笑顔、挑戦する姿、協力し合うひたむきな姿に1年間の大きな成長を感じました。6年生からの「お礼」には、一緒に歌い、手拍子や合いの手で盛り上がり、歓喜の声と嵐のような拍手が会場に広がりました。

最高学年の先輩から次代の高学年となる代表委員に、戸三小での大切な仕事・役割の一つとして「校旗の揚げ降ろし」の「引き継ぎ」も行いました。大きな存在だった上級生の姿から日常を通じて学び、伝統を継承していくということを各学年それぞれの発達段階に合わせて感じ取っていたようで、凛とした空気に包まれた中、真剣な瞳で校旗を見つめていました。

戸三小で学んだこと、身に付けたこと、思い出、仲間との絆…その全てを力に、自信をもって新しい春に歩みを進めていくことができるよう、最後まで「さらにひと伸び、そしてふた伸び」を応援していきます。そして、飛翔の春のその先も「ふるさと戸三小」としてずっとずっと応援し続けていきます。

保護者の皆様、地域の皆様には1年間の教育活動にご理解・ご協力くださりありがとうございました。

巣立ちの春に思いを寄せて

6年担任

6年生が小学校で過ごす日が残りわずかとなりました。6年生を送る会では、下級生から心温まる歌やメッセージをいただきました。お世話になった全ての人への感謝や自分の成長を振り返りました。一部ではありますが卒業生の思いをご紹介します。(原文まま)

- これまでは、6年生に助けてもらいながら、学校生活を送っていましたが、6年生になると1年生を助けたり、学校のことをしたりと、できなかったことができるようになりました。
- 6年生を送る会では、他の学年がぼくたちのために時間をかけて出し物の用意をしてくれて本当にうれしかったし、心温まるものばかりでした。自分たちのお返しの出し物のときに拍手をしてくれたり、笑ってくれたりしてうれしかったし、最高に楽しい6年生を送る会になりました。
- 最初と最後にくぐるアーチはとてもきれいで、卒業する実感がわいていました。もう少ししかないけれど、下の学年の人が言ってくれたような素敵な6年生で卒業し、これからは素敵な中学生になっていきたいです。
- 何事も友達と協力し、心をつなぐすべし、人間はひとりで生きることはいらないから、いろんな人たちに感謝することを学ぶことができました。
- 人にやさしくするとたくさんの人に声をかけられて、助け合いの輪が広がるとわかりました。まだ、できていないところが達成できるようにしたいです。